

た、先に述べたように端的に云えば、ラジアータマツの造林コストは我が国の造林コストの約 1/10、伐出コストは同 1/3 程度である。これらの点から同国の木材輸出の国際競争力は相当強いものと考えられる。但し、同国のラジアータマツは品質の点（節および年輪幅）で評価が低い。このため近年は成長を犠牲にして強度の枝打ちを励行している。また、同国の政府関係者および業界は海外市場でのマーケティング、利用開発、消費流通調査等に熱心であり、この面での日本（JICA）の国際協力を希望している。

チリーに限ったことではないが、開発途上国の造林援助は、造林技術や造林資金の協力のみでは不十分で、折角育てた人工林材の市場開発による造林振興が望まれており、今後、造林木の利用調査についての日本のノウハウを国際協力で役立てる必要があることを痛感している。

新刊紹介

◎アカシアの生物学 (NEW, T. R. 著 : A Biology of Acacias. A new source book and bibliography for biologists and naturalists. Oxford Univ. Press (1984) 邦価, 約 12,000 円,

アカシアについては、これまで Firewood Crops. Vol. 1, 2 (National Academy of Sciences, U. S. A.) などで主要種がとりあげられているが、本書はアカシアに限って、分類、形態、生理、生態、利用などについて、これまでの知見を要領よくまとめている。著者はもともと昆虫学者のようで、アカシアと節足動物などの章に、本書の特色がでている。わが国ではほとんど無視されてしまったアカシアではあるが、熱帯地域では積極的に植栽されている樹種の一つである。副題にあるように、700 近い論文のリストがつけられているのは、今後の研究にありがたい。(渡辺弘之)